

# 第五回福崎町柳田國男ふるさと賞 中学生の部 受賞 「福崎町の狛犬について」



福崎町立  
福崎東中学校 1年  
藤田 捺未

私は、福崎町の神社にある狛犬について調べました。

まず始めに、なぜ狛犬について調べようと思ったかについて説明します。神社を参拝すると狛犬が置いてあるのを見かけます。その狛犬をよく見ると顔や形が微妙に異なっており、私はそのことが以前から気になっていました。そこで、普段は決まった神社しか行きませんが、この機会に福崎町の神社をまわり、どんな狛犬が置かれているか調べてみることにしました。

実際に調査する前に、狛犬とは何かについて調べてみました。狛犬とは獅子や犬に似た想像上の生物とされています。神社の社殿前に置かれている狛犬は、獅子と言われ、中国の



漢の時代以降の石獅子の系統を引くもので、守護的な意味あいを持っています。わが国で狛犬が出現したのは、平安時代からです。一般的には、平安時代からして右側の獅子像が「阿形（あぎょう）」で口を開いています。左側の獅子像が「吽形（うんぎょう）」で口を閉じています。古くは角を持っていましたが、昭和時代以降に作られた物は、左右ともに角がないものが多く、口の開き方以外に外見上の差異がなくなっています。また、狛犬はその地方その地方によって江戸型、浪花型、出雲型などいろいろなタイプがあります。江戸型は、目がやや小さめで、耳は伏せ耳、鼻は小さく、あごひげが

カールしているなどの特徴があります。浪花型は、目がぎょう目で、耳は折れ耳、鼻は大きく団子鼻、両脇に少しひげがあるなどの特徴があります。出雲型は、目がつりあがついていて空豆型で、耳は垂れ耳、鼻は獅子鼻短めなあごひげがあるなどの特徴があります。

このように、狛犬についていろいろと調べた後に実際の調査をしました。今回行ったのは、福崎西中校区で10、田原地区で12、八千種地区で7、合計29の神社です。調査した神社は次の通りです。

## ◆福崎西中校区

- ①一之宮神社（板坂）②田賀神社（田口）③諏訪神社（長野）④大歳神社（神谷）⑤三宮（福田）⑥大歳神社（福田）⑦二之宮神社（山崎）⑧新町天満宮（新町）⑨八幡神社（西治）⑩廣田神社（高橋）

## ◆田原地区

- ①恵美須神社・大國主神社（井ノ



- 口）②鈴ノ森神社（辻川）③北野天満神社（北野）④田嶋神社（西野）⑤熊野神社（田尻）⑥三十八社（吉田）⑦八坂神社（八反田）⑧與位神社（中島）⑨藤田神社（長目）⑩住吉神社（西光寺）⑪大年神社（大門）⑫大歳神社（亀坪）

## ◆八千種地区

- ①日吉神社（西大貫）②天満神社（東大貫）③大年神社（南大貫）④地神社（庄）⑤大歳神社（余田）⑥若宮神社（小倉）⑦熊野神社（鍛冶屋）

これら29の神社をまわり、神社が造られた年を調べるとともに、神社の写真と左右の狛犬の写真全てを撮り表にまとめました。その結果、福崎



町内にある狛犬は、近畿地方でよく見られる浪速型がほとんどであることがわかりました。

最後になりますが、町内には想像していたより多くの神社があり、見て回るのが本当に大変でした。また実際に調査してみても、浪花型が多い以外に、狛犬造りにはあまり決まりはなく、地域の石材加工業者に

よって型が違っていることもわかりました。風化によって新しく造られている物もありますが、井ノ口の恵美須神社は、昔造られた古い物が手洗い石のところに置いてありました。私はこのような昔造られた物が風化したりすることがないようにしっかりと管理し、出来るだけ保存していきたいなと思いました。

## 第五回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学生低中学年の部 受賞

# 玉木十ろうべえについて



八千種小学校三年 内藤 のこ

八千種小学校の玄関の横に、穴の開いた大きな岩があったので「何だろう」と思って調べてみることにしました。

岩の下には、玉木十ろうべえの馬つなぎ石と書いてあります。まずは、玉木十ろうべえについて調べました。

玉木十ろうべえは一六五〇年頃に

八千種小学校のところに住んでいました。一六五〇年頃は、田んぼの開墾や、川の整備がたくさん行われていました。この八千種地区は雨の少ない時にはすぐに水がなくなり、水を求めて村人同士で争いがたくさん行われていました。雨の多い時には、まわりの山から平田川に水が流れこみ、洪水になり困っていました。

村人は「水さえあれば、稲が実る」と神様にお祈りしたり、殿様をお願いしたりしました。

殿様は、玉木十ろうべえを八千種に行くように命じました。玉木十ろうべえは山口県の武士でしたが、このころ姫路城下に住んでいました。十ろうべえは住吉山のふもと（今の八千種小学校）に家を建てて活動を

始めました。十ろうべえは、田んぼを作り、農業などを教えました。暇な時は馬に乗って見回りをしていました。八千種の水不足をなくすためにため池づくりもしました。機械がない時代なので全部手作業です。八千種の村人みんなが協力しました。そして、できたのが庄宮の池と茹又（かりまた）池です。また、平田川は、大雨が降ると洪水になってしまうので、洪水にならないように、作りかえました。

村人たちは、水不足や洪水の心配がなくなったので大喜びだったそうです。十ろうべえはこのように八千種のために力を尽くした恩人となりました。



しかし、殿様をお願いごとをしたため、怒りをうけて八千種から追放されてしまいます。そのときも自分の田んぼや畑を村人に分け与え、何も言わず立ち去ったそうです。

この岩は、村人たちが玉木十ろうべえへの感謝のために残してあるそうです。この岩の他にも、小学校の東のお墓に玉木十ろうべえの記念碑もあります。私たちの先祖が十ろうべえにすごく感謝していたことが分かりました。

私はこの岩を調べて、玉木十ろうべえが八千種のために、村人と協力して、私たちの先祖の暮らしを守ってくれたことがすごく分かりました。しかし、だんだん忘れられていると思います。今でもこの池や川は私たちの暮らしを守ってくれています。私も大切に守っていこうと思います。

第五回福岡市柳田國男ふるさと賞 小学生高学年の部 受賞

## 大庄屋三木家の謎にせまる！



八千種小学校五年  
上杉 このみ

### ◆調べようと思ったきっかけ

わたしは歴史が大好きです。以前から三木家に興味があり、一般公開している時も、お母さん、妹と一緒に何回か見に行きました。展示してあるものを見ながら「三木家の人たちはどんなことを考えていたのかな。」と疑問がわいてきて、それについてもっと知りたいと思いました。夏休みの初めに開かれた三木家の見学会に参加した時には、たくさん写真を撮って昔の大きな家のつくりや工夫、柳田國男先生の生家とは違うところを発見しました。保存修理の監督の方からも修理前の三木家のこと、昔の家の暮らし、なぜそうなっているのか、実際の修理のときはどんな様子だったのかなどの

お話もたくさん聞かせてもらいました。見学を終えて分かったことやおもしろかったこと、そして他の人に知ってもらいたいことを中心にまとめました。

### ◆大庄屋ってどんなもの？

江戸時代にはそれぞれの村に地方三役の一つ「庄屋」があり、郡代、代官のもとで村政を担当していました。



今で言う村長さんの役割です。そして、三木家が務めた「大庄屋」とは、この庄屋をまとめる役割をしていました。村々の取り締まりはもちろん、争論の解決などの仕事も日々行い、みんなから頼られる存在でした。

### ◆基礎知識身につけたのは三木家

日本民族学の父・柳田國男は明治八年（一八七五年）、松岡家の六男として辻川に生まれました。三木家と松岡家は代々学問的交流があり、國男は十一歳のとき、一年間三木家に預けられました。ここで國男は歴代の当主が収集した大量の書物と出会い、この読書体験が後年、日本民俗学を生む基礎となりました。九代当主・三木拙二（せつじ）と國男は二歳違いであり、竹馬の友として生涯にわたり交流を深めました。

### ◆大発見！謎の文字

平成二十二年度から実施された保存修理工事の際に壁面から墨書が発見されました。墨書とはその名の通り、墨で書かれた文字のことです。この発見によりそれまではつきりと分かっていなかった主屋の建築年代が「宝永二年」ということが



分かるようになりました。年代が書かれた墨書が発見されたのは主屋だけではありません。副屋や内蔵などの五つの建物からも、墨書が見つかっているのです。この墨書を手がかりに研究し、今では三木家の建物全全ての建築年代が分かっています。昔の人は、この謎多き大庄屋に、しっかりと建てた年を書き記していたのですね。

### ◆三木家の中はどうなっているの？

○大きな梁

三木家の内には、建物全体の重さを支える「梁」があります。梁は二階の天井や一階に、たくさんありました。梁は大きな家にはしかなないそうです。

○薄暗い部屋

二階には物置部屋があります。そのさらに中には暗



い部屋が見えます。そこはかつてお客さんが寝泊まりする時の部屋だったとか。謎が深まるばかりです。

○天井の窓

一階にある

かまどでご飯を炊いた時に出るけむりを外へ出すためにかまどの真上には窓(あな)が開いていました。柳



田先生の生家にはこのような窓はありませんでした。すると、これも大きな家だけにあるものなのでしょうか。

### ◆三木家ってこんな建物!

三木家は昭和四十七年に兵庫県重要有形文化財に指定されました。

○建てられた年 一七〇五年

(宝永二年)

○敷地面積 一八六一・一八m

(約五六三坪)

○建物 ①主屋 (一七〇五年)

②副屋 (一七七三年)

③離れ (一七七三年)

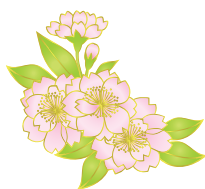
④内蔵 (一六九七年)

⑤米蔵 (明治前期)

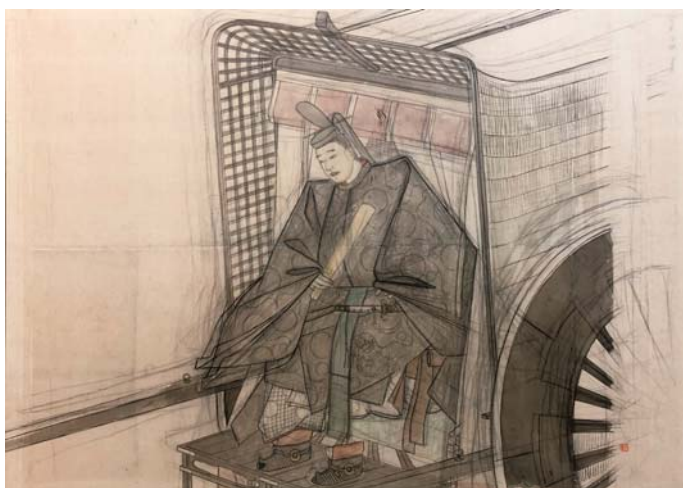
- ⑥酒蔵 (一七一三年)
- ⑦角蔵 (江戸後期)
- ⑧厩 (江戸後期)
- ⑨表門 (一八七四年)

### ◆取材を終えて

三木家について調べて、わたしはもっともつと歴史が好きになりました。三木家のことは詳しく知らなかったのいろいろなことを知ることができたし、たくさんのお見もあっておもしろかったです。調べた中でもわたしが特にすごいなと思ったことは、三木家が建てられた一七〇五年(宝永二年)から今日までの間、台風などの自然災害や戦争があったにも関わらず、いろいろな人の手で直され、たくさんの人々に支えられてこの福崎町に歴史を残しているということなんです。三木家の人々が残していった立派な建物と歴史を私たちも大切にしたいです。この先ずっと残していつてほしいです。私は福崎町に引っ越してきてまだ二年だけれど、すてきな歴史について学んだことで、福崎町が大好きになりました。



## 表紙の写真



表紙の絵は、松岡映丘作「右大臣実朝」の右下図で、柳田國男・松岡家記念館に所蔵されています。日本画は、小下図、大下図、本作の順に作成します。大下図は本画作成のもととなり、原寸大でレイアウトや手順などを確認するためのもので、大下絵、草稿とも言います。

松岡映丘の傑作の一つと言われる「右大臣実朝」ですが、大下図も本画の緊張感をそのままに、装束の地模様なども細かく表現されています。また、雪は本画にはありませんが、大下絵図では確認できません。どのような経緯で雪が描かれるようになったか、興味をそそります。今年、松岡映丘没後八十年を迎えるということで紹介いたしました。



### 編集後記

たくさんの方々のご協力により、福崎町文化第三十四号を発刊することができました。

玉稿をお願いしました皆様方には大変お忙しい中執筆いただき、ご協力くださいましたこと厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。